

## あ・と・が・き

今年の冬は寒暖の差が大きく、日高の軽種馬育成調教場では、雨や雪解け水が、その後の冷え込みで凍ることの繰り返しで、馬道等の確保に万全を尽くすべく、悪戦苦闘の日々でした。このような中、近隣牧場での馬房数の増加や若馬の調教場利用開始時期の早期化等により、若馬の利用頭数も増加し、冬場から活気のある調教場でありました。今年も利用馬の2歳戦の結果が楽しみです。

当センター研修生は全員就職も決まり、あとは4月17日の修了式を待つのみです。1月からのJRA育成馬騎乗訓練では、若馬調教の困難さの壁にぶつかりながらも、昨年の育成馬から朝日杯F5優勝馬(セイウンワンダー号)が出たこともあり、自分たちが乗った馬からG馬が出ることを期待すると、更に訓練にも熱がこもっておりました。4月14日には第27期生が入講してきますので、今までの研修生同様よろしくお願い致します。(Y.H.)

桜花の季節を迎え、「たづな」には昨秋就任されました社団法人競走馬育成協会の吉田武徳副会長理事にこれからの抱負について、語っていただきました。優秀な競走馬を育成することの重要性について、ともにたづなを取り合って閉塞感の漂う社会情勢を乗り切りたいと思います。

「科学の箱馬車」では、芦毛の遺伝子解析およびメラノーマとの関係について、財団法人競走馬理化学研究所の戸崎晃明氏に分かり易く解説いただきました。「調査・研究」では、育成期の効果的な運動の方法についてJRA総研の大村一氏に執筆いただきました。より速く走る馬の育成に役立てていただければと思います。「馬にみられる病気」では、若馬によく発症する管骨骨膜炎について解説しました。早期発見や発症予防に関心を持っていただければ軽減できると思います。

このところBTCの事業の一環で実施している育成調教技術者養成研修に関連して、研修生の活動状況の一端を紹介しています。馬生産や競馬の発展に若馬の育成事業の充実は欠かせません。優秀な育成技術者を継続して養成することは大切であると考えています。若い皆さんに興味関心を持っていただくことを期待します。(T.Y.)